

看護部だより

ひまわり



2016年1月
発行責任者：小牧加代子

VoL. 40

“心配りでお互いの尊厳を大切に”

2016年例年になく暖かい新年を迎えましたが、皆さん一人一人の力で今年も病院・地域の医療を充実させていきましょう。

病院では、医療とケアの質の指標QIを明確にする取り組みをしています。すでに褥瘡発生率や医療安全の評価、感染管理の視点、再入院率等指標が示されていますが、看護部独自にも看護協会DINQL事業に参加しています。日々多重課題を抱えながら頑張っていることが指標として見えることで更に皆さんの励みや誇りになることを願います。

患者さんご家族は皆さんのケアにほぼ満足していただいています。時折挨拶や対応についてご意見をいただいています。

昨年もHospitalityについてお願いしましたが、すべての患者さんご家族・医療関係の方々・職員同士も含めお互いの尊厳を大切に心配りが行き届くように今年も取り組んでいきましょう。また、今年は診療報酬改定の年です。現在中医協において検討されていますが、中でも7対1看護体制の削減を大きな目的に看護必要度の見直しが行われています。3月までに病棟再編も含め対応を迫られていますので勤務異動等ご協力をお願い致します。皆さんにとって健やかな一年でありますようお祈りいたします。

看護部長 緒方 くみ子



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、全病棟でPNSを導入、看護必要度に関する監査等の見直し、DINQL事業への取り組みを行いました。PNSについては各ラダーレベルに応じ、また各部署における課題を抽出し取り組み中です。また、看護必要度に関する監査、教育についても監査の実施や研修の実施により内容の充実が図られてきていると感じています。

当院が目指す「北薩地域におけるベストホスピタルを目指す」というビジョンに向け、専門性の強化、地域との連携の強化を看護部としても取り組んできました。

このような方針を形にしていくためにはまず何より「人を育て」「人を生かし」「人に生かされる」組織を作ることが必要だと考えています。当院は、いろいろな教育支援を組織として取り組んでいます。昨年から取り組んでいるeラーニングもその一つです。昨年の評価を行い、今後の取り組みを考えていきます。

院内の診療体制の変化や、地域における医療体制の変化に伴い、柔軟な私たちの変化も求められているように思います。今後この地域でどのような医療体制を整えていくかを考えていかなければなりません。そのために、看護の質、看護師の力を高められるような看護部を目指していきたいと思っています。

副看護部長 長井 砂都美

院内研修

専門研修「感染管理」を終えて

感染管理認定看護師 中野 智子

今回初の試みとして、専門研修「感染管理研修(全2回)」を開催しました。現場で感染対策を実践し指導ができる人を育てることを目指しています。研修内容は血流感染予防と針刺し切創や感染症発生時の対応に重点を置きました。院内で血流感染疑い事例が続いており、三方活栓の汚染と消毒の徹底をどの様に伝えるかが課題であったためです。そこで思いついたのが手洗いチェックで用いるブラクライトに反応するローションを「三方活栓の汚染」に見立てることでした。暗闇で5回、10回、20回と酒精綿で拭取りその都度写真を撮る作業を夜な夜な行いました。参加者の「へえ～」という反応に、このことが三方活栓の消毒の徹底に繋がることを期待しているところです。

よく言われることですが、「 $100-1=99$ ではなく0」、これは感染防止対策を100人中1人でも行わなければ、その場にいた人は全員感染症に侵されてしまう。」という例えです。1人1人が現場で実践すること、これこそが重要と日々感じています。



専門研修「脳卒中リハビリテーション看護研修」を終えて

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 福永 香

11月12日より5回シリーズで脳卒中リハビリテーション看護研修を行いました。今年度も脳神経外科川野医師や薬剤師、栄養士、セラピストに講師を依頼し、より専門的な講義内容となっていました。

皆さん熱心に受講され、コアメンバー9名が修了証発行となりました。

コアメンバーの中には脳卒中患者と関わる機会の少ない部署もあると思います。

しかし、「脳卒中」とは文字通り「卒然として(急に)中る(当たる)」病気で、いつ患者さんが発症してもおかしくない疾患です。「おかしいな」と感じる事、誰かに伝え考えることができるよう今後はコアメンバーが中心となって日常ケアに活かせることを期待します。



e-ラーニング研修報告

「災害看護」を受講して

4階西病棟 西川



「災害看護」についてeラーニングで学習する機会がありました。その中で、「平時にできないことは、危機の時にもできない。」という言葉が印象に残りました。常日頃からしっかりと計画を立て、訓練をしておかなければ、実際は動けない。実際に動けるためには、リーダーシップが図れる存在が必要です。その為には7つの評価が必要で、その中の判断力と人格は育成が必要であり、『認識が変われば、世界が変わる!』普段から『what思考、why思考』が大切であると学びました。災害看護の備えは、平時の看護実践能力の向上(人材育成)であり、看護力が不足すると褥瘡などの2次的合併症を併発し災害ではないことで命を落とす事例もあります。そのことを踏まえ看護の質向上に努めていく必要があると感じました。

「リソースナースを活用する」を受講して

4階東病棟師長 久保

「リソースナース」とは、日本看護協会が定義するスペシャリストとしての専門看護師・認定看護師であり、当院においては、現在7人の認定看護師が誕生しています。熟練した技術を用いた水準の高い看護の「実践」、看護職への「指導」と「相談」という3つの役割を果たしつつ、臨床の場で活躍をしている姿を思い浮かべつつ、頼もしさと期待の大きさを改めて感じ、看護管理者としてリソースナースの育成に関与していく重要性を再認識しました。社会環境の変化や組織の中の自己の位置づけを意識し、リソースナースが活動できる環境を調整しつつ、看護の質の向上に向けて役割を発揮できるように、管理者としての連携を図り協力していかなければならないと考えます。

「抗がん薬の最新知識と最新レジメン理解」を受講して

がん化学療法認定看護師 濱田 幸蔵

基礎知識としての内容も含まれていますが、ほとんどは臨床に出てから自分で学んでいく内容ばかりでした。現場で働く看護師にとって基礎知識や最新レジメンは、医師や薬剤師が知っていれば良いという考えの人がほとんどではないでしょうか。講義でもありましたが、他職種でレジメンを理解することが必要であると言われています。スキルアップをしたい、今後携わる可能性のある看護師さんは、是非受講してみたいはいかがでしょうか。今後、益々充実した化学療法看護ができるように、一緒にがんばりましょう。



院外研修報告

日本医療マネジメント学会 第14回九州・山口連合大会に参加して 3階東病棟 福山

今回、初めて九州の学会に参加しポスター発表を行いました。テーマは「安全な術後早期離床のためにSIRSは有用な指標となりうるのか」。内容は、術後患者の離床のために離床フローシートを作成し、それを活用するための取り組みと合併症の発生件数について、また病棟スタッフへアンケート調査を実施し、フローシートの使用後の反応や意見をまとめました。

発表はとても緊張しました。質問をされた際には、上手く言葉をまとめることができず、聞き苦しい解答をしてしまいましたが、今回の研究発表を通して学んだことがたくさんあり、今後の臨床の場で活用していきたいと思います。

また、他の病院の発表も聞き新たな発見や情報を得たので、実践してみようと思います。

2025年問題を見据えて

「在宅療養を支援する看護師の関わり方について」に参加して 回復リハビリ病棟 皮籠石

回復リハビリ病棟で退院調整の必要な患者を受け持ち、他職種との連携をとり調整を行っています。研修では、主に退院調整(支援)のプロセスは三段階あり、入院後早期から関わること、その時期に合ったアプローチが重要になることや、2025年問題について医療現場の対策などを学びました。研修の中で事例を用いて退院調整を進めていくグループワークがあり、色々な意見を出し合いまとめることが出来ました。当病棟で行っている支援と大きな差はなく、自分たちが行っている事に自信を持って良いことが分かりました。病棟看護師のあり方、MSWのあり方など知る機会になり、研修後は、まず自分の受け持ち患者から退院後の生活イメージを持ち関わっています。



日本感染管理ベストプラクティスSaizen研修会に参加して

4階西病棟 西本

この研修では採血、吸引、薬剤のミキシングといった多くの看護手技を「感染対策」の視点から手順を見直し、作成するという内容でした。私は「真空管採血」のグループに所属し病院内のスタッフと協働して「感染対策」に着目し手順書を作成しました。実際の採血の手順を観察し気付いたことは、採血実施前の手指衛生は行えていましたが、物品準備時、片づけ後の手指衛生が行えていない。また手袋装着率が低い現状を知ることが出来ました。その点を踏まえ注意喚起し作成したことで実施率の向上が図れました。看護手技では手順も重要ですが、針刺し事故や体液暴露といった危険性もあるため、スタッフに浸透できるように働きかけていきたいです。



ナラティブ

3階東病棟 王子野

私は、当院に勤めて様々な患者様との出会いと別れを経験してきましたが、その中でも私が外科病棟に異動になり初めて受け持った患者様について書かせて頂きます。

A氏は50歳代男性で、横行結腸癌の診断を受けた方でした。妻と子供2人の4人暮らしで、一番下の息子さんは小学生でした。

普段から口数も少なく、短気なところもあり、横行結腸癌の術後、化学療法が開始になると副作用で気分不良や食欲不振などからイライラされている様子もありました。そんな中、息子さんの事を尋ねると、とても穏やかに話をしてくださった事を思い出します。「息子は、料理が上手で自分が家で寝ていると何か作ろうか？と声をかけてくれるんだ。この間は、卵焼きを作ってくれてね。美味しかったよ。」と、話をされる表情は患者ではなく父親でした。化学療法を開始し、2年程経過した時、化学療法の内容を変更する治療方針を本人へ説明がされた時、「陽に当たれないのであればしない。」と返事をされました。変更になる化学療法の副作用に対し、日光を避ける必要があったためです。なぜ、効果が得られるかもしれない治療を断ったんですか？と声をかけると、「息子の野球の試合に行けなくなるから」と返事をされました。

私はまだ親になっていませんが、その時何とも言えない気持ちになりました。少しでも残された時間を子供と過ごすために、父親として家族と過ごす時間を優先した本人の答えでした。

私には、まだ元気な両親や妹弟、そしていつも傍に居てくれる夫が居ます。身近に居る家族と過ごす時間の大切さを教えて下さった患者様でした。

マイブーム

4階東病棟 杉園

最近ハマっているわけではないのですが、ここ6、7年ほどエギングにはハマっています。エギングとは餌木を使った鳥賊釣りのことです。主に春と秋に阿久根や串木野方面に出かけています。おすすめの餌木はプロスペックのディープインパクト3.5号です。しかし夏は暑いいうえにあまり釣れないので行きません。冬は寒いので4、5回投げて釣れないようなら、心が先に折れるのであきらめて帰ります。夏はビアガーデン、冬はこたつで鍋が好きです。子供がもうすぐ3歳になるので、そろそろエギングの英才教育始めようかと思案中です。

もしエギングをしている方がいらっしゃったら気軽に声かけて下さい。・
いろいろ情報交換をしましょう。



今年の抱負

3階西病棟 溝口

昨年末に「おむつフitter研修」に参加しました。研修ではおむつや排泄環境についてだけでなく、排泄に関する対象者の思いを知り、共に考えることの大切さを学びました。急性期では疾患に対する看護展開が重要です。しかし、専門領域の知識を深めるということは、食事や排泄などの日常生活援助が常に看護の根底にあるということ忘れてはいけなと振り返りました。私は新しい看護体制であるPNSを通し、原点に戻り研修で学んだ「対象者の思いや日常生活を大切にできる看護」をスタッフみんなで取り組んでいきたいと思いました。

4階東病棟 岩元

看護師免許を取得し、今年で3年目を迎え、今年度プリセプターとして新人看護師の教育・指導にあたります。

今年の抱負は、学生時代の経験や新人ローテーション、4階東病棟での学びを活かして知識、技術と思いやりを持って丁寧な対応をしたいです。まだまだ知識、技術ともに未熟ですが、共に成長していけるよう日々学習に努めていきたいです。患者と関わり、患者の思いや苦痛を理解し支え、思いやりを持った看護の提供をしていきたいです。

編集後記

私たちがいつも身にまとっている白衣、白衣に着替えると自然に気持ちが仕事モード(プロ意識)に切り替わる気がしませんか？昨年、創業100周年を迎えた白衣の老舗会社で記念出版された本があります。その中からの一説(詩)を紹介します。

最も幸福な人々、自分の職業を最も愛する人々、
自分の人生に最も感謝の念を抱いている人々、
それは私の考えでは病人の看護に携わっている人々である。
—フローレンス・ナイチンゲール—

自分の仕事に自信と誇りを持って毎日を過ごしたいですね。

小牧

